

短歌 (松山南船短歌会)

十五回の忌もすぎにけり如月の永雨つづきの夜はむらさき
 神戸市の先端医療センターに受話器の子の声「余命三月」と
 交叉点に行き交う車人の群れ愛別離苦の想いを秘めて
 市房のダムに浮いてる花いかだほとりに昼餉す二人のくつろぎ
 まな板の鯉とはいかぬ台上血圧上り身は凍りつく
 高齢の腕よき大工岩元氏美事つぎつぎ板を張りゆく
 記念樹の桜はやつと満開に一夜を見せて嵐に褪せる
 草餅に「あん入り」記す太き文字友の味しむ小雨降る夕
 亡き夫の植えし紅梅ほころびて風のゆらぎが淋しくはなやぐ

畑 美佐子
 前原 恭
 石橋 道子
 川添八重子
 中島 昭
 吉元ミチ子
 大迫 鈴子
 藤田ミチ子
 山口 カツ

たつま狂句 (有明町たつま狂句同好会)

兼題 「鯉幟」 高こ泳つ 鯉幟田圃を 鏡みしつ 平田 光夫
 (評) 過疎の空に高々と泳ぐ鯉幟の姿が田圃の水面に映える。元氣な子どもにも成長して欲しいとの願いに答えるが如く、水面を鏡にして自分の姿を見ては泳いでいる。下5の(鏡しつ)が効いている。擬人法、誇張法でスケールの大きい作品です。

兼題 「終わつ」 八十路じなつ 終わつちな早え 今ん時代 稲付 通夫
 (評) 高齢化の時代、引退するにはまだまだ早いです。後ろには団塊世代の人達が控えて居ます。子ども達、周囲に迷惑を掛けずに貢献できるはずです。中7の(早え)が効いていて元気が出て来る。時代を象徴している真実味のある作品です。

試合題 「返事」 あいそいで 返事じゃせじ理解い 老夫婦 小蓬原 忠則

(評) 名前が直ぐ出て来ない、はっきりと言ってくれないと困ると奥さんは言うが、それでも以心伝心で的を得て主人に手渡している。誰しも経験があり、中7の(せじ理解い)が効いている。誇張法で滑稽味のある作品です。

兼題 「終わつ」 長げ法話 終わつてかいも 軒くけつ 丸目 南兵衛

(評) 俗世間に染まっている身にとって、お坊さんの説教は海原を漂う小船に乗ったようで心地良い。終わったのも気づかず夢うつ。ついつい粗相をしてしまう。誰しも経験があり、中7の(終わつてかいも)が効いている。滑稽味、真実味のある作品です。

兼題 「終わつ」 長げ勤務 終わつ帰郷れば 役く背負つ 畑山 敏昭

(評) 転勤族にとって定年は人生の節目。いざ帰りなん故郷へと。時間は一杯あるし、趣味・旅行と枚挙に暇がなく楽しみにしていたところ、集落の役が回って来た。故郷も高齢化、六十代そこそこは青年部である。これも地域に貢献で良しとすべし。下5の(役く背負つ)が効いている。経験した事で真実味のある作品です。

俳句 (ぎんなん俳句会)

海峡は風の抜け道夏兆す
 夕顔の咲く二つ三つ雨戸繰る
 梅雨明けて朝一番の鳥の声
 梅雨晴間サンダル出して履いてみる
 葉の先を蹴りて蜻蛉の飛び立ちぬ
 夕闇に響く太鼓や宵祭
 禅寺の風に煽られ梅雨の蝶
 朝風呂の窓より数へ紋白蝶
 梅雨晴間鷺舞ひ踊る虚空かな
 観覧車きみと語らふ夏の宵
 野生馬の蹄のリズム雲の峰
 天の川渡し舟漕ぎ一夜旅
 かなかなの鳴くほど鳴いて日を沈め

川上 豊
 目黒 文恵
 北川 雨水
 刀坂由美子
 今井 洋子
 堂園 悦子
 福留まり子
 熊谷 啓子
 今府 勝郎
 福岡 潤
 小林久美子
 久保田洋子
 和田 洋文

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：ひまわり (しおかぜ公園)】